

日本の公共図書館におけるマンガの所蔵状況調査

西島 麻美

昨今、2006年に京都国際漫画ミュージアム、2009年に米沢嘉博記念図書館、2012年に北九州市マンガミュージアムなど、マンガを主な所蔵資料とするミュージアム等が設立され、注目を集めている。公共図書館におけるマンガの所蔵状況を調査した事例としては、いくつかの研究が挙げられるが、これらはある一定の地域内の公共図書館を扱っているのみで、全国的な所蔵状況は明らかにされていない。そのため、所蔵状況という観点から、全国の公共図書館ではどのようなマンガを収集しているのかを特にベストセラーに焦点を当てて、本研究では明らかにする。

調査対象とするマンガ資料は、全18タイトル、合計796巻とした。これは複数のサイトにベストセラーとして挙げられているマンガを有名なベストセラーであると仮定し、その中から無作為に抽出したものである。本研究ではカーリルの図書館APIを用いて調査を行った。カーリルの図書館APIを用いる理由としては、図書館を複数指定することで横断的に検索が可能であり、各図書館のOPACを用いるよりも効率的に所蔵調査ができるからである。検索する際には、各マンガの第1巻から第3巻のISBNを用いて検索し、1巻でも所蔵していれば、そのタイトルのマンガを所蔵しているとみなした。

調査対象とする図書館は、全国の公共図書館4,596館である。調査は2014年6月10日から2014年11月27日まで行った。各タイトルの集計の結果、最も多くの館で所蔵されていたマンガは「動物のお医者さん」であり、690館で所蔵されていた。これは調査対象とした公共図書館の約15.0%を占めた。図書館に多く所蔵されているマンガは、音楽や芝居等といった恋愛以外の明確なテーマが描かれている少女マンガや、暴力表現が少ない少年マンガ、あるいはマンガに関する賞を受賞している青年マンガであると窺われた。なお、出版部数と図書館に所蔵される割合に大きな相関はなかった。

そして、1タイトルでもマンガを所蔵していた公共図書館は1,485館であり、調査対象とした公共図書館の約32.3%を占めた。自治体種別では、村立図書館が最も多くの割合でマンガを所蔵しており、県立図書館が最も低い割合であった。これは県立図書館がマンガの収集に慎重であり、調査研究等の機能を相対的に重視している一方で、資料数が少ない村立図書館は、より利用者に求められる資料の収集を重視するため、マンガを多く所蔵していることが理由であると考えられた。

(指導教員 辻慶太)